大韓民国少年施設被収容者の家族画について

中央研究所　佐藤　和夫
奥村　晋
鳥取少年鑑別所　鷹村アヤ子
東京少年鑑別所　石黒　裕子
浦和少年鑑別所　藤掛　明

1　目的
2　家族画の出現徴標の調査
3　家族画徴標の出現パターンの調査
4　まとめ

1　目的

本研究の目的は，大韓民国（以下韓国）の少年施設被収用者（以下非行少年）の描く家庭画の特徴を分析し，今後の家族画を用いた臨床や研究の基礎となる資料を提供しようとするものである。家族画は言語をあまり介さない投影法検査の一つであるため，今後，非行や青少年の問題の国際的な理解が要請されていくなか，比較研究する上でその価値をいっそう高めていくことが予想される。しかし，家族画のように社会的な場を設定した課題画の場合，非常に文化差の影響を受けやすく，まず活用の前提として標準的反応を明らかにしておく必要がある。そうでない場合，すなわち「ある集団の被検者の描き方が明確でないと，家族画の理解に欠かせない客観的知覚と統覚的歪曲の区別ができず，家族画の解釈を誤ることになる。」このため「たとえば記念写真スタイルや空白の顔の人物像の出現頻度…など，特定の課題の家族画テストで通常出現する特徴（客観的知覚）を明らかにしなければならない。」(*1)

そこで本研究では，まず韓国の非行少年の描いた家族画の主だった徴標の出現を調べ，ついでそれらの徴標がどのようなまとまりをもって出現するのかのパターン分析を行った。ただ，得られた徴標の特徴に対して，欧米や日本の解釈枠組みを硬直に適用できないことから，描画徴標の特徴は明らかにしても，それ以上の意味付けを行うことは控えた。(*2)

2　家族画の出現徴標の調査

(1)　目的

韓国の非行少年の家族画の特徴を，同種の日本の非行少年の調査結果と比較しながら，その相違点を明らかにすることを目的とする。

(2)　方法

ア　被調査者

韓国の非行少年の家族画は，韓国のソウルに所在する少年院在院者を被調査者として，「私の家族」画(*3)を描いてもらい（1992年3月，各施設の職員によって実施），分析の対象とした。しかし女子は少年院だけでは数が集まらなかったためにソウルの少年鑑別所在所者も被調査者に加えた。その内訳は男子200人，女子117人（内少年院50人，少年鑑別所67人）。なお，描画後質問の情報不足から続き柄を特定できない絵や，人物が描かれていない絵があり，それらをあらかじめ分析対象から除いたため，本研究での実際の分析対象数は，男子122人，女子80人（内少年院23人，少年鑑別所57人）となった。

また，日本の非行少年の家族画については，脇野（1987）の調査結果を用いた。

イ　家族画の徴標調査の方法

家族画の，徴標を中心とした分析項目と基準については，比較の必要から藤掛（1989），奥村ら（1992）のものに準拠し，表1のように設定した。また，出現が少なく従来分析項目として取り上げられていないが韓国においては際だっていたものについて，最後にまとめて指摘することにした。

(3)　結果

家族画の徴標の出現調査の結果は，表2の

表1　家族画の分析項目，分析基準

項目1：人物（群）像の占有空間の大きさの評定

(1)大。(2)中。(3)小。

描画中に人物像の占める空間の割合を大，中，小に分類する。割合の判断は，用紙を九分割し，人物像が僅かであっても描かれているセルを勘定する。セル6枚以上を大，5枚～2枚が中，1枚を小と評定する。

項目2：自己像の省略

(1)省略有り。(2)なし。

描画中の自己像の省略の有無を評定する。

項目3：最大人物像の評定

(1)自己像。(2)父親像。(3)母親像。(4)他。

項目3の測定の対象となった人物像を分類する。

項目4：人物（群）像の動きの特徴についての評定

(1)同一の動き。(2)非同一の動き。(3)動きなし。

項目5：特殊描画法の存在の評定

(1)プロット，鳥かん図。(2)棒表現，シルエット表現。(3)後ろ姿。(4)空白の顔。(5)なし。

特殊描画が複数種類出現する場合には，主たる特殊描画法を評定することとし，番号の若い方がより特殊性が高いと考え，番号の法を優先して評定する。

項目6：場所の評定

(1)室内。(2)戸外。(3)車中。(4)自然。(5)場所の描写なし。

描画中の人物像の描かれた場所を評定する。室内と戸外の双方が描かれている場合には，最大人物像の描かれた場所を基準に評定する。また，戸外と自然の双方が描かれている場合には，戸外と評定する。

項目7：テーマの評定

(1)食事，団らん，TV視聴。(2)娯楽，スポーツ，共同作業，散歩。(3)テーマなし。不明。

項目8：事物の出現

(1)食卓。(2)流し台。(3)食物。(4)家具。(5)テレビ。(6)電灯。(7)家屋。(8)車。(9)動物。

(10)木・草・花。(11)太陽。(12)山。(13)海・川。(14)道。

とおりになった。韓国の家族画の男女それぞれを，日本のものと比較し，各項目ごとにそれぞれX^2検定を行った。

その結果，男女共通して，韓国の非行少年では，日本と比べて，場所の評定では「戸外」の描写が多く，テーマでは「娯楽，散歩，作業」が多い。事物の描写では「家屋」が多く出現している。

韓国の男子非行少年を日本の男子非行少年と比較してみると，家族像の占有空間が大きく，「自己像の省略」が少ない。最大人物像は「自己像」が多く，「母親像」が少ない。家族の動きでも「同一の動き」が多く，「動きなし」が少ない。場所の評定では，「戸外」「自然」が多く，「室内」や「場所なし」が少ない。テーマの評定では，「娯楽，散歩，作業」が多く，「食事・会話」や「その他のテーマ・不明」が少ない。事物の描写では，「木，草，花」「山」「海・川」「道」が多く描かれている。

韓国の女子非行少年を日本の女子非行少年と比較してみると，最大人物像は「父親像」が多い。動きの特徴としては，有意傾向（P<.10）程度であるが男子とは逆に「動きなし」が多い。場所の評定では，「戸外」が多く「場所なし」が少ない。事物の描写では，「家屋」が多くなっている。

(4)　考察

ア　男女共通の非行少年の描画の特徴

異文化の文脈のなかでは，描画の特徴を指摘することはできても，それ以上の意味づけを行うことには無理がある。ここでは，先の有意差のあった描画徴標群に対応する描画作品としてのまとまった描画イメージを指摘することとし，それ以上の意味づけについては原則として行わないこととした。

韓国非行少年に共通して見られる描画の特徴は，「戸外」「家屋」の描写が多いことである。さらにテーマには「娯楽，散歩，作業」が多く，日本の家族画が室内での家族の団らんの多いことと対照的に，韓国の家族画では，屋外での，それも何か目的のある行為（通院，墓参り，ピクニック等）が描かれていることが多くなっている。これは，住居環境や文化風俗による影響の大きいことが推察されるが，また同時に家族のあり方のイメージが，家内での私的な行動に向かわず，社会的で生産的な事柄に結び付いて表出されやすいことをも示唆している。

イ　男子非行少年の描画の特徴

男子非行少年の描画の特徴として，第一に全体の特徴と重なるが，戸外や自然の中で家族が何か同一の目的を持った活動を行っている作品が多い。すなわち，場所では「戸外」や「自然」が多く，「室内」や「場所なし」が少なくなっている。事物の描写においても，「木，草，花」「山」「海・川」「道」が多い。また家族の動きでも「同一の動き」が多く，「動きなし」が少ない。テーマも「娯楽，散歩，作業」が多く，「食事・会話」や「その他のテーマ・不明」が少ない。

第二に男性像が優勢に描かれる作品が多い。すなわち，最大人物像では「自己像」（男性）が多く，「母親像」が少ない。日本では，自己像が少ない父母像が大きく描かれるが，韓国では父親像，自己像（男性）の順で多く出現している。

第三にどうどうと自分や家族の姿を描く作品が多いことがあげられる。すなわち，家族像の占有空間が「大きい」ことが多く，自己像の省略が「少ない」。また特殊描画法は「使用されない」場合が多い。

ウ　女子非行少年の描画の特徴

女子の非行少年の描画は男子に比べ，有意差の見られた徴標が少なく，一つのまとまりとして理解しずらい。女子非行少年の描画の特徴としては，やはり全体の特徴に重なるが，屋外での家族の姿が描かれている作品が多いという特徴を指摘することしかできない。すなわち，場所の評定では「戸外」が多く，

表2　家族画徴票の出現

	韓国		日本（脇野 1987）	
	男子 N＝122	女子 N＝80	男子 N＝110	女子 N＝43
1：占有空間の大きさ				
(1)大。	＊＊＊46 (37.7)	14 (17.5)	17 (15.5)	8 (18.6)
(2)中。	＊66 (54.1)	54 (67.5)	74 (67.5)	26 (60.4)
(3)小。	＊10 (8.2)	12 (15.0)	19 (17.3)	9 (20.9)
2：自己像の省略				
(1)省略あり。	＊＊＊31 (25.4)	46 (57.5)	60 (54.5)	22 (51.1)
(2)省略なし。	91 (74.6)	34 (42.5)	50 (45.5)	21 (48.9)
3：最大人物像				
(1)自己像。	＊＊＊33 (27.0)	9 (11.3)	10 (9.1)	8 (18.6)
(2)父親像。	34 (27.9)	＊24 (30.0)	37 (33.6)	5 (11.6)
(3)母親像。	＊＊21 (17.2)	35 (43.8)	36 (32.4)	24 (55.9)
(4)他。	34 (27.9)	12 (15.0)	27 (24.5)	6 (14.0)
4：動きの特徴				
(1)同一の動き。	＊＊＊74 (60.7)	17 (21.3)	38 (34.5)	7 (16.3)
(2)非同一動き。	15 (12.3)	9 (11.3)	12 (10.9)	4 (9.3)
(3)動きなし。	＊＊＊33 (27.0)	＋54 (67.5)	60 (54.5)	22 (51.2)
5：特殊描画法				
(1)鳥かん図等。	8 (6.6)	5 (6.3)	―	―
(2)棒表現等。	8 (6.6)	1 (1.3)	3 (2.7)	1 (2.3)
(3)後ろ姿。	15 (12.3)	6 (7.5)	9 (8.2)	0 (0.0)
(4)空白の顔。	6 (4.9)	1 (1.3)	5 (4.5)	1 (2.3)
(5)なし。	＊＊85 (69.7)	67 (83.8)	―	―
6：場所の評定				
(1)室内。	＊＊＊14 (11.5)	17 (21.3)	38 (34.5)	11 (25.6)
(2)戸外。	＊＊32 (26.2)	＊＊＊30 (37.5)	11 (10.0)	3 (7.0)
(3)車中。	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
(4)自然。	＊＊＊43 (35.2)	2 (2.5)	9 (8.2)	3 (7.0)
(5)場所なし。	＊＊33 (27.0)	＊31 (38.8)	52 (47.3)	26 (60.5)
7：テーマの評定				
(1)食事，会話。	＊＊＊20 (16.4)	14 (17.5)	41 (37.3)	11 (25.6)
(2)娯楽，散歩。	＊＊＊77 (63.1)	15 (18.8)	17 (15.5)	3 (7.0)
(3)他，不明。	＊＊＊25 (20.5)	51 (63.8)	52 (47.2)	29 (67.4)

8：事物の出現

(1)食卓。	**11 (9.0)	8 (10.0)	26 (23.6)	5 (11.6)
(2)流し台。	2 (1.6)	3 (3.8)	7 (6.4)	3 (7.0)
(3)食物。	14 (11.5)	10 (12.5)	16 (14.5)	3 (7.0)
(4)家具。	+5 (4.1)	+11 (13.8)	12 (10.9)	1 (2.3)
(5)テレビ。	**5 (4.1)	3 (3.8)	15 (13.6)	4 (9.3)
(6)電灯。	1 (0.8)	1 (1.3)	5 (4.5)	1 (2.3)
(7)家屋。	***37 (30.3)	**26 (32.5)	12 (10.9)	3 (7.0)
(8)車。	+8 (6.6)	2 (2.5)	1 (0.9)	4 (9.3)
(9)動物。	4 (3.3)	7 (8.8)	2 (1.8)	6 (14.0)
(10)木，草，花。	***37 (30.3)	18 (22.5)	12 (10.9)	6 (14.0)
(11)太陽。	11 (9.0)	+2 (2.5)	6 (5.5)	5 (11.6)
(12)山。	**21 (17.2)	3 (3.8)	4 (3.6)	1 (2.3)
(13)海・川。	***37 (30.3)	2 (2.5)	5 (4.5)	1 (2.3)
(14)道。	*19 (15.6)	5 (6.3)	7 (6.4)	1 (2.3)

＋　10％水準。　＊　5％水準。　＊＊　1％水準。　＊＊＊　0.1％水準。

「場所なし」が少なくなっている。また事物の描写では「家屋」が多い。

エ　その他の特徴

最後に，韓国の描画調査において，分析項目が用意されていないが，その描画特徴が際だっているものについて指摘する。

第一の特徴は，人物像が非常に大きく描かれることが多いことである。今回の調査対象となった家族画の，それぞれに一番大きく描かれた人物の上下の長さを測定したところ，男子で平均108.92㎜（SD＝69.23，MAX＝270，MIN＝7），女子で平均149.06㎜（SD＝54.85，MAX＝260，MIN＝30）となった。

第二の特徴は，描かれる人物が幼く，過去の回想的な場面が多いことである。幼い時の家族を登場させていることについて，一部の作品については描画後の説明を求めているが，幸福な家族場面を過去の一時期にしか求められない旨の説明が多く，現実の家族関係の悲惨さを示唆するものになっている。

第三の特徴は，第二の特徴にも関係するが，家族全体を揺さぶるような悲惨な出来事を描いている作品も多く，例えば火事で家が燃えている場面や交通事故に家族の誰かがあっている場面等がいずれも複数例見られた。現実の家族像を想起する際にはかなり危機状況にある家族を思い浮かべざるを得ないことを示唆している。

第四の特徴は，父母よりも祖父母や兄弟が最も近い距離に描かれていることが多く見られた。自己像に最も近く描かれた人物が親でなかったのは，韓国男子で68例（韓国男子内での出現率は55.7％），韓国女子で62例（韓国女子内での出現率は77.5％）もあった。

以上，韓国の非行少年の描いた家族画の徴標の出現調査を行い，その結果を日本の非行少年のものと比較し，その特徴を見た。

3　家族画徴標の出現パターン分析の調査

(1)　目的

家族画の主要な徴標を変数として設定し，徴標の出現のパターン分析を行い，家族画の類型を行う。

(2)　方法

ア　被調査者

韓国の非行少年は，2(2)アと同様である。

イ　家族画の徴標のパターン分析の方法

家族画の変数については，藤掛（1989），奥村ら（1992）を参考にし，偽りの相関が生じる項目や，出現の偏りの大きい項目を除いて表3のように設定した。そして，それを林の数量化Ⅲ類の手法を用いて，出現のパターン分析を行った。また，得られた各成分得点の高位のものを，その成分の典型描画として，その共通したイメージを明らかにする。

(3)　結果

家族画の主要な徴標のパターン分析の結果は，男子4成分，女子3成分まで求め，表4－a，bのとおりになった。

(4)　考察

ア　男子の非行少年

(ア)　男子第1成分

第1成分に高い負荷量を示すものは，「自己像省略：あり」「動き：なし」「場所：なし」等の項目であった。これらの項目からは，動きのない家族が並び，背景の描写のあまりない描画をさすものと考えられる。しかもその人物群には自己像が省略されている。これらは「背景のない棒立ちの家族」の画と呼ぶことができる。

この成分に高い得点を示す典型描画作品を見ると，自分以外の家族成員が1名から3名描かれており，それも上半身や首より上の顔をかなり大きく描き出しているものが多い。背景には何も描かれておらず，生活実感がない絵ばかりである。

図1はその代表例である。少年は14歳，小5中退，非行は窃盗。家族画を見ると左に弟，右に叔母が上半身で描かれている。描画後質問では，自分を相手にしてくれる二人の人物であると説明されている。実際の家族は実父がアルコール中毒で，体罰がひどく，実母は家出して不明，弟が一人いる。

(イ)　男子第2成分

第2成分に高い負荷量を示すものは，「占有空間：小」「最大人物：母」「場所：戸外」等の項目であり，対局には「動き：非同一」

表3　家族画徴票の出現パターン分析のための項目

項目1：人物（群）像の占有空間の大きさの評定
(1)大。(2)中。(3)小。

項目2：自己像の省略
(1)省略あり。(2)なし。

項目3：最大人物像
(1)自己像。(2)父親像。(3)母親像。(4)その他。

項目4：人物（群）像の動きの特徴についての評定
(1)同一の動き。(2)非同一の動き。(3)動きなし。

項目5：場所の評定
(1)室内。(2)戸外。(3)自然。(4)場所の描写なし。

項目6：自己像に最も近くにいる人物
(1)親。(2)他。

表４－ａ　家族画徴票の数量化Ⅲ類の結果（男子）

			成分１	成分２	成分３	成分４
項目１	占有空間	(1)	0.909	0.548	0.881	−1.006
		(2)	−0.501	−0.775	−0.792	0.889
		(3)	−0.876	2.595	1.172	0.566
項目２	自己省略	(1)	2.063	0.001	−0.581	0.401
		(2)	−0.703	−0.000	0.198	−0.137
項目３	最大人物	(1)	−0.841	0.170	1.951	0.386
		(2)	0.029	−0.618	0.591	−1.594
		(3)	−0.273	1.623	−2.796	−1.408
		(4)	0.956	−0.548	−0.758	2.089
項目４	人物動き	(1)	−0.667	0.572	0.229	0.775
		(2)	−1.020	−3.245	−1.585	−2.122
		(3)	1.960	0.192	0.207	−0.773
項目５	場所	(1)	−0.683	0.565	3.015	1.380
		(2)	−0.709	2.012	−1.980	0.551
		(3)	−0.766	−1.949	0.113	−0.057
		(4)	1.975	0.350	0.495	−1.045
項目６	最近距離	(1)	−0.937	0.696	0.129	−1.302
		(2)	0.744	−0.553	−0.103	1.034
固有値			.483	.219	.213	.204

表４－ｂ　家族画徴票の数量化Ⅲ類の結果（女子）

			成分１	成分２	成分３
項目１	占有空間	(1)	−1.458	−0.412	2.774
		(2)	0.293	−0.619	−0.487
		(3)	0.382	3.268	−1.044
項目２	自己省略	(1)	−1.052	0.389	−0.287
		(2)	1.423	−0.527	0.388
項目３	最大人物	(1)	1.949	−0.924	−0.187
		(2)	0.023	−1.085	−1.684
		(3)	−0.382	0.194	1.431
		(4)	−0.392	2.296	−0.666
項目４	人物動き	(1)	1.252	1.204	1.922
		(2)	2.302	−1.112	−1.269
		(3)	−0.778	−0.194	−0.394
項目５	場所	(1)	1.406	−1.032	0.475
		(2)	0.390	1.285	−1.201
		(3)	0.854	5.935	2.748
		(4)	−1.204	−1.061	0.725
項目６	最近距離	(1)	1.984	0.221	1.096
		(2)	−0.576	−0.064	−0.318
固有値			.377	.253	.216

「場所：自然」等の項目であった。これらの項目からは，母親を中心とした家族像が建物近くに置かれた描画をさすものと考えられる。しかも，それらは遠景的に小さく描かれている。これらは「戸外にいる母親を中心とした小さな家族」の画と呼ぶことができる。

この成分に高い得点を示す典型描画作品を見ると，母親に連れられた子どもが病院や学校等に入ろうとするか，あるいは自宅に帰ろうとしている絵が多い。それもやや鳥瞰図的に上から眺めているような場合がかなりある。

図2はその代表例である。少年は15歳，中1中退，非行は暴力。家族画を見ると右下の二人が本人と義母で，他の人物は無関係な通行人である。義母と一緒にバスから降りたばかりで，これから家に向かうところである。実際の家族は実父義母のもとに育った一人っ子で，その義母は家出中で所在がわからない。描画は過去の良かった場面を回想したものとなっている。

(ウ)　男子第3成分

第3成分に高い負荷量を示すものは，「最大人物：自己」「場所：室内」等の項目であり，対局に「最大人物：母」「動き：非同一」等の項目があった。これらの項目からは，室内での家族が描かれ，また描かれる家族成員も自分と同じような大きさかあるいは自分が最大に描かれている(*4)描画をさすものと考えられる。これらは「室内の家族」の画と呼ぶことができる。

この成分に高い得点を示す典型描画作品を見ると，室内で家族が食事をとる場面やゲームをする場面の絵が多い。人物像の大きさでは自己像が大きい絵は少なく，描かれた成員が同じ大きさで描かれている絵が多くなっている。

図3はその代表例である。少年は18歳，中卒，非行は特殊窃盗。家族画を見ると父（左上），母（右上），兄（左下），本人（右下）と家族が集まって楽しく食事をする場面が描かれている。用紙余白には「仲むつまじいわが家，楽しい食事の姿」と言葉が記されている。この作品の描き手の家族情報は得られておらず，描画後質問も行われていない。

(エ)　男子第4成分

第4成分に高い負荷量を示すものは，「最大人物：自己像，父母像以外の他者」等の項目であり，対局に「最大人物：父」「最大人物：母」「動き：非同一」等の項目があった。

これらの項目からは，父母が強調されることなく，親や自分以外のある人物が強調されて描かれている描画をさすものと考えられる。これらは「親以外の人物を強調する家族」の画と呼ぶことができる。

この成分に高い得点を示す典型描画作品を見ると，親以外の重要人物とは，祖父母であったり，兄であったりする。登場する家屋も，祖父母の家であったり，教会堂であったりし，自宅ではない第2のわが家といった風である。

図4はその代表例である。少年は17歳，小3中退，非行は窃盗。家族画では，幼い頃，秋夕（日本の盆に相当）に祖父母の家に家族で行き，幸せに過ごしたことを回想している。ただし，絵には祖父母と本人しか描かれていない。実際の家族は，両親，兄，姉の5人家族であったが，父親が死亡し，母親は他の男性と再婚したが，そうした新しい家にはなじめず，本人は家出をし，その後姉夫妻のもとに引き取られている。兄は住み込み就労を行い，独立している。

イ　女子の非行少年

(ア)　女子第1成分

第1成分に高い負荷量を示すものは，「最大人物：自己像」「動き：非同一」「最近接：親」等の項目があった。これらの項目からは，登場人物の動きが同一でなく，自己像が大きく描かれているか，あるいはみな同じような大きさで描かれているかしている描画をさすものと考えられる。しかも自己像の近くには

図１　韓国男子の典型作品１

図２　韓国男子の典型作品２

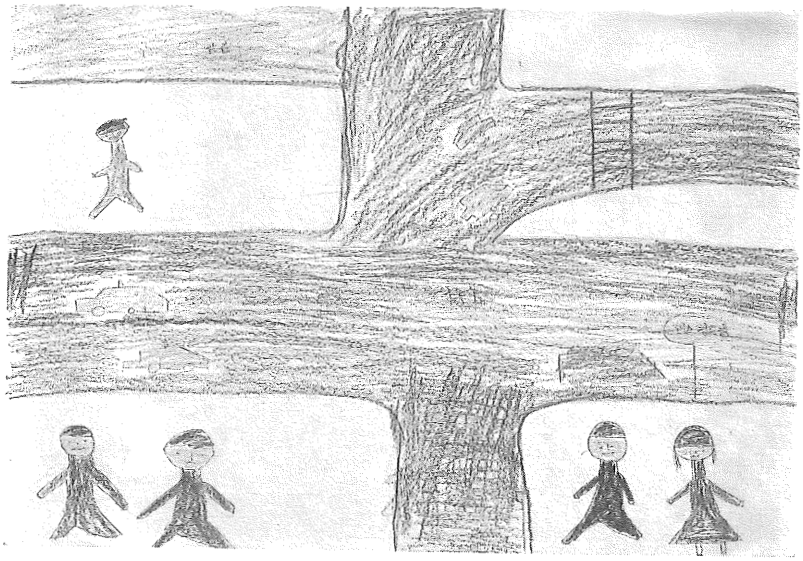

図3　韓国男子の典型作品3

図4　韓国男子の典型作品4

図5　韓国女子の典型作品1

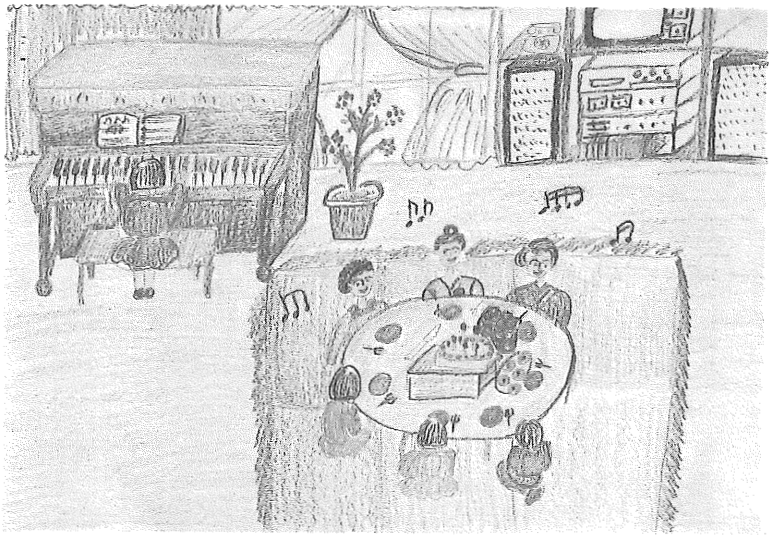

図6　韓国女子の典型作品2

図7　韓国女子の典型作品3

親が描かれている。これらは「非同一の家族」の画と呼ぶことができる。

この成分に高い得点を示す典型描画作品を見ると，その内容は多彩であるが，室内で家族が集まり，異なった動きを見せる絵や，自宅前で親の帰りを出迎える絵等が目立つ。

図5はその代表例である。少年は19歳。高卒。非行は窃盗。家族画は，まん中から右寄りに祖母の誕生日を祝うために家族が座っている。本人は左はしでピアノを演奏している。一番幸福だった昔を回想したものである。父親は事業家で，母親は主婦，兄弟は3人おり，祖母を含めて7人家族である。やや裕福であること以外に他の家族情報はない。

(イ)　女子第2成分

第2成分に高い負荷量を示すものは，「占有空間：小」「最大人物：自己像，父母像以外の他者」「場所：自然」等の項目があった。これらの項目からは，自然の中で親や自分以外の人物が強調されて描かれている画をさすものと考えられる。しかも人物（群）は比較的小さく描かれている。これらは「親以外の人物を強調する家族」の画と呼ぶことができる。

この成分に高い得点を示す典型描画作品を見ると，その内容は多彩であるが，戸外や自然の中にいることが共通しており，概ね親以外の人物や家族が描かれているが，親が描かれているものもある。ただ，登場人物は非常に少なく，占有空間はやはり小さくなっている。

図6はその代表例である。少年は18歳。小卒。非行は不明。家族画は，自宅の前にいる従姉を描いている。少年の家族情報はない。

(ウ)　女子第3成分

第1成分に高い負荷量を示すものは，「占有空間：大」「場所：自然」「動き：同一」等の項目があった。これらの項目からは，自然の中で家族像が大きく描かれ，同一の動きをしている描画をさすものと考えられる。これらは「同一の動きの大きい家族」の画と呼ぶことができる。

この成分に高い得点を示す典型描画作品を見ると，その内容は多彩であるが，自然の中で多くの家族成員が横並びになっているものや，少ない家族成員であるが大きく描きだされているものが目立つ。

図7はその代表例である。少年は15歳。中1中退。非行は薬物使用。家族画は，屋外の夫婦像をかなり大きく描いている。一番両親が幸福だった頃を回想したもので，絵の中の両親は手をつないでいる。母親は少年が14歳時に父親と別居している。他に兄が二人，姉が一人いる。

4　まとめ

本研究では，韓国の家族画の特徴について，以下のことが明らかになった。

(1)　徴標の出現率を日本と比較すると，韓国の男女共通の非行少年の家族画の特徴として，戸外や家屋の描写が多く，それも何か目的のある行為が描かれていることが多かった。日本の家族画が室内の家族の団らんの多いことと対照的である。

性別で見ると，男子では，①全体の特徴と重なるが，戸外や自然の中で家族が同一の何か目的を持った活動を行っている作品が多かった。②男性像が優勢に描かれる作品が多かった。③どうどうと自分や家族の姿を描く作品が多かった。女子では，全体の特徴に重なるが，屋外での家族の姿が描かれている作品が多かった。

(2)　その他の，分析項目以外の男女共通の家族画の特徴を挙げると，①人物像が非常に大きく描かれていた。②描かれる人物が幼く，過去の回想的な場面が多かった。③家族全体を揺さぶるような悲惨な出来事を描いている作品が多かった。④父母よりも祖父母や兄弟が最も近い距離に描かれていることが多かった。

(3) 家族画の主要な徴標の出現を，数量化Ⅲ類によりパターン分析を行い，男子は4成分，女子は3成分を求めた。男子では，①背景のない棒立ちの家族の画，②戸外にいる母親を中心とした小さな家族の画，③室内の家族の画，④親以外の人物を強調する家族の画，女子では，①非同一の家族の画，②親以外の人物を強調する家族の画，③同一の，大きい家族の画が，抽出された。

本文註

＊1　高橋雅春（1987）「家族画診断の基礎」臨床描画研究Ⅱ，金剛出版。「家族画ガイドブック」（矯正協会）にも収録

＊2　当初，「タイ王国少年院在院者の家族認知について」（奥村ら，1992，中央研究所紀要2）と同様の手続きで，韓国の非行少年の家族認知に関する調査・研究を予定していたが，今回はタイ王国の調査時のように個々の描き手のケース記録を得ることができなかった。そのため，描画情報のまとまり具合いに生の事例をつきあわせ，描画の意味付けを帰納的に確認していく作業ができなくなり，初期の目的を達成することができなくなった。

＊3　家族画の実施法には様々な種類があるが，本研究では先行研究に準じ，「『私の家族』という絵を描きなさい。」という教示法を採用した。

＊4　最大人物像の評定にあたって，自己像が最大の場合だけでなく，自己像を含む複数の大きい人物像があり，その順位が決められない場合にも，便宜的に「自己像」と評定した。

参考文献

奥村晋他（1992）タイ王国少年院在院者の家族認知について・家族画による類型化とその臨床像，中央研究所紀要第2号，矯正協会附属中央研究所

藤掛明（1989）非行少年の家族認知の分析・質問紙法及び描画法による類型化とその臨床像の検討，矯正研修所21回研究科論文，法務省矯正研修所

脇野満寿美（1987）描画に現れる家族イメージ・非行少年と高校生の家族の比較を通して，大阪教育大学修士論文